

GW中に大きく動いた金利

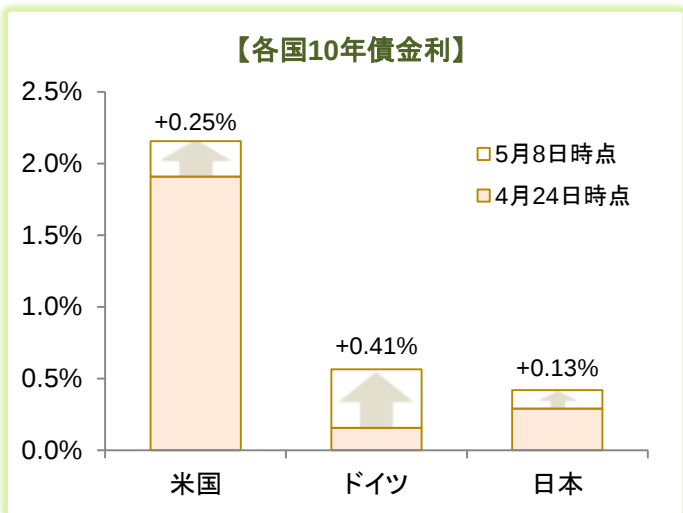
日本のGW連休中、グローバル金融市場は急変しました。特に目立ったのは欧米の長期金利の急上昇（債券価格は急落）で、債券投資家にとっては大きな痛手となりました。

金利が急上昇した背景の一つとして、**ドイツ金利があまりに低くなり過ぎたため**と言われています。債券王の異名を持つ著名投資家も「ドイツ10年国債は空前絶後の売り機会」と指摘しており、債券バブル懸念も生じています。

また、米国ではイエレンFRB*議長が「米国長期金利が非常に低い。利上げ後に長期金利急騰の可能性はある」というメッセージを発信しました(5月6日)。

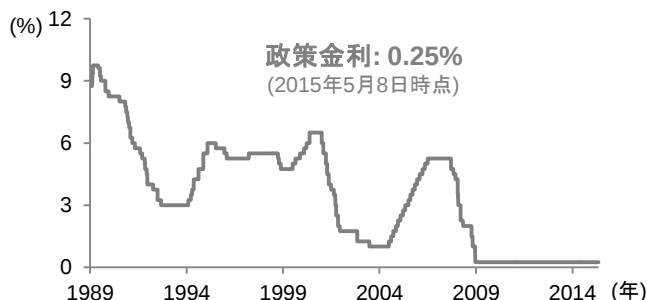
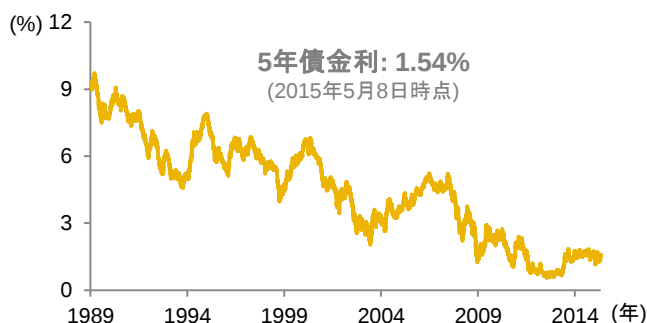
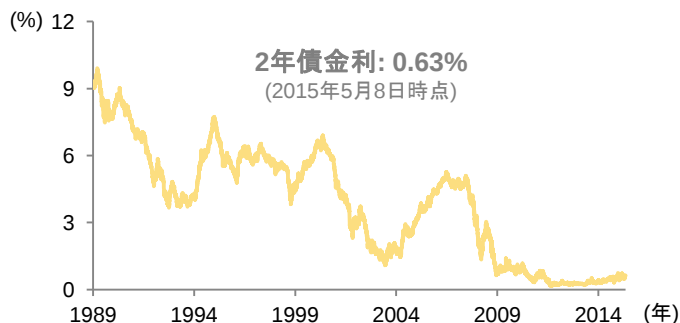
市場が混乱したGW中の金利上昇ですが、これは**金利トレンドの潮目が変わった可能性**を示しています。

*米連邦準備制度理事会



出所:ブルームバーグ

目で見える金利 ～米国債金利の変遷～



出所:ブルームバーグ 期間:1989年1月~2015年5月8日 過去のデータは将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものでもなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、あくまで例示をもって理解を深めていただくためのものであり、当該個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等を推奨あるいは勧誘するものでもありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(I)複写、写真複写、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、あるいは(II)再配布することを禁じます。

© 2015 Goldman Sachs. All rights reserved. <5881-OTU-25831>